

令和6年度 雄物川危機管理演習を開催しました！

1. 概要

- 危機管理演習は、雄物川圏域の減災対策協議会における「雄物川の減災に係る取り組み方針」に基づき、大規模氾濫を想定した、ロールプレイング方式により行いました。
- 本演習は、今後の大規模氾濫時への備えとして、河川管理者と自治体が協力して作成した”避難指示等の発令に着目したタイムライン”の検証・改善および防災対応行動の確認・習熟を目的とし、今回は大仙市と湯沢河川国道事務所が合同で実施しました。

2. 開催日時・会場・スケジュール

- 日時：令和6年10月23日(水)
- 会場：湯沢河川国道事務所および大仙市役所
- 参加者：大仙市、秋田市、横手市、湯沢市、仙北市、美郷町、秋田地方気象台、JR東日本秋田支社、東北電力、秋田県(仙北地域振興局、平鹿地域振興局、雄勝地域振興局)、防災エキスパート、湯沢河川国道事務所 約110名参加
- スケジュール：

1. 開会・挨拶(湯沢河川国道事務所 松原所長)	13:00～13:05
2. 演習直前説明、初期情報の確認	13:05～13:15
3. ロールプレイング型図上演習	13:15～16:15
4. 演習後の意見交換会・講評	16:30～16:57
5. 閉会・挨拶(大仙市 老松市長)	16:57～17:00

3. 主要演習項目(※特に本演習で着目した項目)

1. 収集した情報の迅速かつ的確な整理・共有・伝達
※関係機関等の状況把握、関係機関への情報伝達
2. 今後の見通し分析および適切な状況判断
※河川管理者から自治体へ避難に寄与する助言・河川情報提供
※災害対策用機械による減災対応
3. 住民に対する迅速かつ的確な避難支援・広報
4. 河川管理者と流域自治体の緊密な連携

4. 演習場面

- 演習想定日時は、梅雨前線の発達に伴い大仙市域に大雨をもたらす気象状況の中、「2025年7月9日13時15分演習開始」とし、雄物川及び玉川等が急激に水位上昇する設定とした。
- 被災想定は、国で管理する雄物川や玉川の堤防漏水・水衝洗堀や溢水・越水のほか、大仙市内における内水被害などを想定した。時間の経過とともに、水位が上昇し、堤防が決壊に至り、大規模氾濫が発生する想定とした。

5. 演習状況



大仙市役所演習会場



湯沢河川国道事務所演習会場



ホットラインによる情報提供



リエゾンによる情報共有

6. 演習に対する感想等



松原所長挨拶

・タイムラインに基づき、洪水予報や避難指示等の発表・発令タイミング、河川管理施設等の被害情報共有を検証し、大規模氾濫時における河川管理者と各自治体との防災行動の確認・習熟のために演習を行う。
・訓練したこと以上のことは出来ないと言われる。演習が大規模氾濫時の逃げ遅れゼロや被害最小化に向けた対応の一助になれるよう取り組む。

意見交換会での意見・講評

- ・氾濫危険水位を超える予測、避難情報等は、PC上で表示されていたが、大きな声での情報共有もあるとよい。
- ・水防活動や被害情報の状況を図面に書きこみする等、活用してほしい。
- ・最上川で警察官が殉職されたが、現場に向かうようなことがある場合は、自分の安全第一で行動してほしい。
- ・決壊情報は市内では共有できていたが、湯沢河川国道事務所に対して情報共有できていなかった。
- ・大災害時には、広域避難、庁舎の機能移転等の検討も必要であるが、今後の課題となる。



老松市長挨拶

・今回の演習では、改めて、各関係機関との迅速な連携による情報伝達、それに基づく災害の初動対応の重要性を強く感じたところである。
・湯沢河川国道事務所と大仙市が連携し、相互の情報共有、外水・内水対応等を確認できたと思っている。本訓練を通じて得た成果を今後の災害発生時にはしっかり生かしたい。